

△ 店主が綴る、エッセイのようなもの△

くちびるに珈琲を。

the sun in mind, the coffee to lips.

すみなすものは、心なりけり

喫茶ピーコックの創業は1964年

前々回の「東京オリンピック」があった年なんですね

その6年後、1970年には大阪万博があり

そしてその55年後

つまり2025年には再び大阪で万博が開催されます

高度経済成長、バブル、失われた30年と
経済や世相も移り変わっていくけれど

今現在は明治維新の再来とも言われる時代の過渡期

「おもしろき」ともなき世をおもしろく」

という句にもあるように

自分から面白がつていけるかが大事な気がしています
刀を置いてジャケットを羽織ったよう
何かを置いて、何かを掴む時代なのかもしれませんね



100年続く、「地域のお茶の間」をめざして。



ピーコックマガジン 2022年4月号(隔月発行)

発行:喫茶ピーコック 大阪府豊中市藤部元町1-1-6 TEL:06-6864-0311

COFFEE & CURRYHOUSE PEACOCK Issue.11

僕の好きな
言葉

最も強い者が生き残るのではなく、
最も賢い者が生き延びるのでない。
唯一、生き残るのは変化できる者である。

チャールズ・ダーウィン

□ 今回の一冊

ニュータイプの
時代

山口 周

実はこれ、コロナ以前に書かれた一冊。時代の過渡期、新しい時代だと言われてきたものがコロナによってさらに加速したわけだけど、たくさんのヒントが詰まった良書です。



本と音とお店のはなし。

■ 僕らの町のお店



フェルマータ

国 <https://www.fermate.co.jp>
✉ staff@fermate.co.jp



地元の活動でもお世話になっている寺戸さん。発達障害当事者の職場におけるコミュニケーションを円滑化する「コンダクター」というアプリを開発されています。寺戸さんの思いが詰まった事業、僕も応援しています。

上芝英司 | 1979年服部生まれ、喫茶ビーコック3代目店主。喫茶と文筆に勤しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。



<https://peacock64.com>

PEACOCK64 服部



for HATTORI City Boys & Girls

時代と経済



以前から店内ではお伝えしていましたが、4月4日から「コーヒー」の価格やその他様々なことが変わります。価格や営業時間・環境負荷や地域活動など、ここ数年で僕が地域に携わって見聞きしたことがすごく反映されたマイナーチェンジになっているのかなと思うんだけど。

僕が店に入った18年前、喫茶ビーコックのコーヒーは1杯330円でした。

時代と経済にどうぞお読みください。

た。まだコンビニコーヒーもなかった時代です。当時からしてみれば、コンビニコー
ヒーやカフェーム、サードウェーブ
やおうちカフェなどなどコーヒーを取り巻く生活環境もすいぶん変化しました。

高度成長長期に「24時間働けますか?」とバリバリ仕事に励んでいた世代の方々にとって喫茶店は朝支度であり、応接商談室であり、都会のオアシスだったりもしたわけです。そんな生活嗜好品としてのコーヒーの立ち位置も変わり、地域のお茶の間としての喫茶店もその役割を変えつづあるのだと感じています。

コロナがあり、通勤や外回り営業や対面営業も減ったと聞きます。少子高齢化や人口減少も社会課題としてニュースなどで度々取り上げられています。

そんな中、これからのお茶の間として何ができるかを日々考えきました。

まだほんやりしていますが、僕のたどり着いた結論は「地域と一緒に暮らしていく」ことです。

資本主義や消費経済にどっぷり浸かるのではなく、小さく地域を循環したり、小さな種を育んだり。「地域経済」という小さなたらいの水を送つては寄せて。それが時としてカレーやコーヒーであったり、過ごす時間や出会う人や本であったりするわけです。

暮らしの「場」として駅前にあり続ける、そんな喫茶店になれば素敵だなと思うし、きっとこれまでそうだったんだろうなと思うんです。

競争には乗らない、みんなで暮らしを「共創」していく。

なーんてうまいこと言えた気がするので、お後がよろしいようで。

それにしてもコーヒーの値段が20年前から20円しか変わらないのです、そりやお客様にも心配されるわけですね。笑